



女性として、どうして「原子力」のお仕事に一生懸命なんですか。

「エネルギーがつくられ、そして女性たちに自由がきた」――。

1995年初めて出席した原子力の仕事に携わる女性たちの世界組織「WIN（ウイン）」のスウェーデンでの会議でこの言葉を聞いた時、自分自身が原子力の仕事をするこの原点をみた気がしました。

若い女性にはピンとこないかも知れませんが、つい100年前の日本女性にとって生活は家事でありそれ以外の人生を選択する自由はほとんどなかったんじゃないでしょうか。今でもその視点で世界を見ると、内戦、貧困、就学困難、多産問題、医療施設不足などの解決に、まだまだエネルギーを必要とする地域の人々が数十億人もいます。エネルギーがあれば、人間は、単純労働から知的労働や学習に時間を振り向けることができ、発展途上国の近代化、民主化を進められるのではと思います。どの国の女性も自分らしい人生を切り開ける幸せを手にとって欲しいと願っています。「女性が幸せな国は、良い国、平和な国」と、

特集

私は単純に思うのですが、それが私なりの世界平和への道であり、原子力広報の仕事を続けている原点の思いなんですよ。

ユニークな旅がお好きとか…
柳井にも想い出が？

日本全県をまわってみたいと思って、たくさん一人旅をしました。最後の県は、確か秋田県でした。今振り返ってみて、もう一度行ってみたい所は、富山県の大牧温泉かな。深い峡谷に囲まれ、船でしか辿り着けない秘境、本当に雰囲気がいい温泉でしたねえ。「ああ、極楽ごくらく」って思わず出てきますよね。最近、なかなかそういう時間がないですが。そうそう、以前、山口県柳井市にうかがった時のことなんですけど、観光地を回っていてどこかに大好きな手袋を忘れてしまっって意気消沈状態。でも、地元の親切な方がいらっしやって、わざわざ私を探して届けてくださったんです。すごく嬉しくて、今でもそのときの様子が鮮明に思い出されます。名物の金魚ちようちんも、家の居間と食堂で、泳いでいますよ。

小川 順子

原子力の広報というお仕事に女性らしい「コミュニケーション能力」を発揮され、全国はもとより全世界を飛び回っている小川順子さんのお好きな言葉を聞かせていただきました。「私はワ・タ・シ」。



これからの社会と女性の役割りについてどう思われますか。

原子力の分野は、男性、それも技術系がとて多いです。日本では、長い間、科学・技術は、男性のやるもの、女性は、文学部や家政学部へとという考えが一般的でしたので、仕方がない部分もありますね。でもこれからは、少子高齢化とともに、一般社会の意思決定に女性の意見が求められる場面がますます多くなります。いままでの男性中心だった分野でも女性の発想を取り入れていくことが必要になるのではないかしら。それは、原子力も例外ではありません。政治や、科学・技術に置き換えても、男性の発想力と女性の発想力が合わさって、「プラスα」なパワーを生む。資源がない国「日本」の生きていく道は、コミュニケーション能力、誠実さ、努力、丁寧さ、気配りといった女性の能力を科学・技術のいろいろ



女性交流会:テーブルトークでハートtoハートで語り合う



世界原子力協会から原子力広報活動に貢献したとして表彰を受ける(2005.9ロンドンにて)



茨城女性交流会の参加者とWIN-Japanのメンバー



2005年4月チェコ共和国にて行われたWIN世界大会

な分野に活かしていくことが必要だと
思います。

暮らしとエネルギーについて考える
ことは？

とても身近で重要な問題ですね。世界
の言葉となった「モットイナイ」とい
う気持ちで行動していくこと。そうい
う心さえあれば、自然に省エネにつな
がっていくと思います。お金も、資源
も、命も活かしかるること、食事だって、
お肉やお魚、野菜などの命をいただい
ているわけですから、残って捨てるこ
とのないよう必要以上に作らないこと。
そのほか、いらぬ電気を消すって、
学校でも家庭でも行っていますよね。

「好きなこと見つけて、
好きなこと続けていって欲しい」

主婦感覚でいうと冷蔵庫
の開け方などもひと工夫
を。私もよくやってしま
うことですが、開けた後
で、何を取り出すか考え
たりして、冷蔵庫の温度
を上げてしまっている。

反省しなきゃ。冷蔵庫内
のストック表なんて作る
といいです。あと、今年
の冬の寒さは厳しかった
ので、他の季節には閉め
ない雨戸を閉めて、部屋
の温度をキープしました。一番のオス
スメは、湯たんぽ。今シーズンは、い
ろんなタイプのおしゃれな湯たんぽが
登場して、ちよつとしたブームにな



中学校へのゲストティーチャーとして原子力のお話を



WIN-Globalから世界最大
の原子力総合企業AREVA
会長のアン・ローベルジョン
さんへWIN大賞を授与
(2005.12パリにて)

小川順子(おがわ じゅんこ)

大学卒業後、日本ニュークリア・フュエル株式会社に入社、現在日本原子
力発電株式会社広報室調査役(副部長)に至る。

活動 WIN-Japanの会長(2000~)

WIN-Globalの会長(2004.5~)

表彰 2005年9月世界原子力協会(WNA)から、原子力産業にお
いて、原子力平和利用に貢献した女性としてWNA大賞を受賞。

W I N - J a p a n

っていましたよ。日本人の知恵です
ごいすよね。まさに、「古きをたず
ねて新しきを知る」ですね。

公私にわたり、これからチャレンジ
していきたいことは？

WIN-Global会長として2期目
の2年にチャレンジすることになりま
すが、これまでの2年で、まずは世界
に活動をアピールする、ということ
を中心でやってきまして、成果を上
げることができたと思います。今後も、
WIN-Japan・Globalとも
自分たちの活動を積極的に発信し、会
員相互の交流を深めていくことで、確
かな歩みを続けていきたい。それから、
WIN-Globalに属する約60カ国
の中には、活動をしていない国もある
ので、これらの国の活性化も図りたい
ですね。

個人的には、月1回のお茶の教室を
続けながら、いずれは踊りの教室も
開きたいなあと思っています。日本
舞踊や茶道をしている時間は、私に
とっては、「魂が、本当に喜ぶ」究極
の癒しの時間です。日本を所作と心
で理解してもらおう手段だと思ってい
ますので、今の仕事にも大変役立っ
ています。海外での集まりで踊りを
披露したり、お茶会を催したり、外
国の方にとっては、異文化に触れた
という満足感を得られるようです。
仕事以外での文化交流って、人と人
が理解し合う上で、とても大切だと
思います。最後になりましたが、本
誌を読んでいらっしやる方も、魂が
喜ぶほどの好きなこと見つけて、「あ
したをまた元気に生きよう」という
糧にしてもらいたいですね。

WIN-Japanとは、

Women In Nuclear—原子力への仕事に携わる女性たちのグループ。'93年にヨーロッパ
で世界組織(WIN-Global)が設立。'00年、日本でもWIN-Japanが設立されました。会
員相互の交流を図るとともに、女性や次世代層に向けた広報活動をしています。